図書情報コーナー

工学部図書室の今と昔

産業機械工学科図書職員　滝　沢　正　順

こういう題で懐旧談を記したりすることも決して無意味ではないでしょう。とはいうものの「懐旧」するには少々条件不足なので、工学部の図書室に関する過去と現在の数字をいくつか比較してみたいと思います。

1．図書室の数

明治10年　1

平成6年　16

工学部の前身校は明治18年以前は2校あったので、明治10年を単純に図書室数1とはいいにくいかもしれません。しかし今の総合図書館の前身は工学部単独の図書館ではもちろんありません。また学科図書室といえる規模のものがあったとも考えにくい。やはり明治10年は図書室数1ということになるようです。

この図書室は明治26年に今の総合図書館に吸収されてなくなりました。蔵書数からいえば、現在の工学部の図書室のほとんどはこの図書室よりも大きい規模ということになります。

2．蔵書数

明治10年　12,491冊（洋8,445、和漢4,046）

平成6年　371,551冊（洋218,566、和152,985）

蔵書数は増加だけしたわけではありません。総合図書館などに移管された本や関東大震災で焼けてこの世から消え去った本もあります。

冊数は膨大に増えたともいえますし、間に1世紀以上の年月があるにしては意外に少ないともいえます。

3．雑誌数

明治13年　32誌（洋31、和1）

平成6年　3,865誌（洋1,718、和2,147）

最新号を受け入れている雑誌数です。平成6年の方の数字には学科間の重複も含まれていますが、それでも大変な増え方です。

明治13年（1880）にも受け入れていて、現在も誌名が変わらずに工学部で受け入れている雑誌に次のものがあります。

Engineering and Mining Journal.
Journal de Physique.
Journal of chemical Society.
Journal of the Franklin Institute.
Mining Journal.
Nature.
Philosophical Magazine.
Proceedings of the Royal Society of London.
Scientific American.

4．資料費

すこし新しい数字ですが、機械科の校費の場合でいうと、

昭和6年　図書費 3,000円　雑誌費 1,500円

平成6年　図書費 95万円　雑誌費 約470万円

物価が違うので比較は難しいですが。

5．図書職員数

すこし細かく見てみます。

明治10年　2人（男2）

明治18年　4人（男4）

昭和34年　22人（女12、男10）

昭和54年　32人（女26、男6）－臨職3を含む

平成6年　33人（女29、男4）－臨職9を含む

明治にくらべれば職員数は増えていますが、蔵書数や雑誌数も考えた上での比較ではどう考えるべきか多少迷います。近年は臨職の方が多くなっていることと、女性が多くなっています。

時間の経過で、どの数字も現在の方はすいぶん大きなものになっています。当然といえば当然なのかもしれませんが。他部局や他大学との比較、教職員数や学生数との比較などもしてみると意外な結果が出たりするのかもしれません。